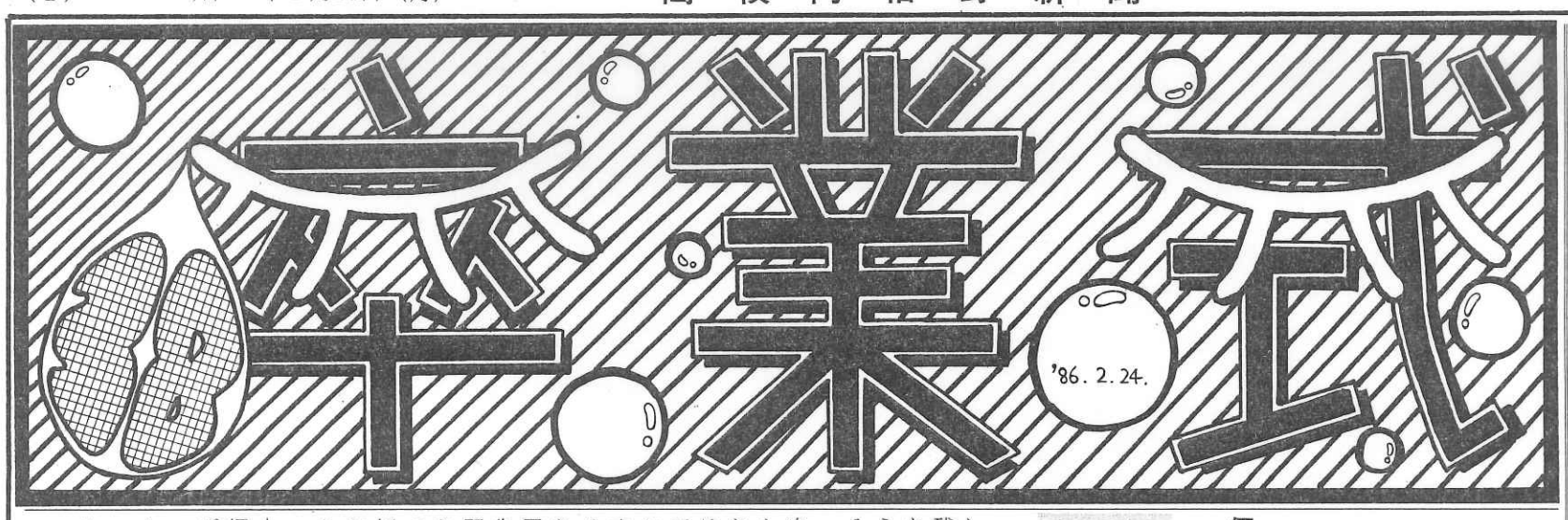


高校阿倍野新聞

発行所
大阪市阿倍野区阪南町一丁目30番34号
大阪府立阿倍野高校
新聞部
編集責任　石橋奈佳
発行責任　高萩治子

輝ける未来へ

今日、それぞれの目標に向かって、スタートをきられた皆さん、御卒業おめでとうございます。卒業にあたって、校長先生や教頭先生をはじめ、各クラスの担任の先生方から、御祝いの御言葉をいただきました。

個性を生かそう

校長　中西昭次

高校生が個性を失って久しいと云われる。まことに残念なことである。先日、ある新聞のコラムに次のような感想が載っていたので、その一部を紹介しよう。

「…阪神というチームは少なくとも〝粒違い〟のおもしろさがある。優等生的な〝粒ぞろい〟のチームにはない楽しさがある。一六五センチの吉田監督が一九八センチのゲイルを迎える。一六三センチの弘田のあとに一八四センチのバースが現れるなんてのは楽しいし、掛布、岡田、平田と、そういっては失礼だが〝おもろい顔〟の内野陣がそろったところは絵になる。打者も一定の型にはまってはいない。手首の強さで打つ真弓がいれば、思い切りのいい岡田がいる。ミートのうまい長崎もいる。……」

粒違いの個性豊かな集団―それが個々の持ち味を発揮する。まことに楽しくすばらしいことである。

巣立って行く諸君の健闘と多幸を祈る。

人生の船出に一言

教頭　門田　弘

卒業おめでとう。就職・進学を問わず、世間は君達を一人前の大人として、迎え入れようとしています。

これからは、甘えを捨てて、自覚を持ち、責任ある行動をとって下さい。

自分中心に世の中を視ないこと。大きくは社会の一員として、小さくは組織の中の一人として、いつも協力と気遣いを心掛けることが大切です。

大勢に迎合するのではなく、主体性をもった協力で、自らの属する組織に貢献してほしい。そのためには、相応の仕事ができるだけの力と、人間としての幅が必要です。

どんな仕事にたずさわるにしても、自分自身を成長させるための勉強と、ひとりよがりにならないための反省を忘れないで下さい。

看板や肩書きに頼らず、自らの力で、幸福で生きがいのある人生を築きあげて下さい。

一組担任　金井美恵先生

「三年生の皆さん、御卒業おめでとう。」

いろいろな夢を胸に抱いて、旅立とうとしている皆さんに、心からおめでとうの言葉を贈ります。皆さんのこれからの人生は、真新しい白紙のページです。その上に、どのような模様を描いていくのか。何を書き記していくのか…。いつかまた、阿倍高に戻ってきて、それぞれの素晴らしい人生ノートを見せて下さい。

二組担任　木下和夫先生

三十八期生の皆さん卒業おめでとう。

私は朝礼で皆さんにウサギとカメの話をしました。ウサギは自分の能力にうぬぼれて自滅し、カメは自分の能力を試して勝ちました。我々人間は常にカメでありたいものです。そして自分には何かすばらしい力があるということを、いつも信じて生きていたいものです。皆さん、自分の力をみくびらないで生きていって下さい。さようなら。

三組担任　内田健治先生

「友よ、見よ、見て思へ」と詩人（堀口大学）は歌っています。「山は、地の、天上めざす、あこがれよ」このような山の存在することを知ったのは、この三年間のことでした。山にアタックするには、経験と技術と体力を必要としますが、登ることはなくとも、これからも時には山に向って、目をあげたいものだと思います。

四組担任　大西三津子先生

この阿倍野高校で共に学び、そして遊んだあなた達が、今日それぞれの方向を目指し、それぞれの道を求めて巣立ってゆきます。なかなか自分の道が見つからない人もいるでしょうし、険しい道を歩き始める人もいるでしょう。進む道は違っても、三年間を共に過ごした仲間であることを忘れないで、そして何よりもやがて二十一世紀を迎え、同じ時代を生きる仲間であることを忘れないで。お元気で。

五組担任　押元　隆先生

「金剛石も磨かずば」金剛石（ダイヤモンド）の原石は、全く輝いておらず、ただの石ころにすぎない。これを光り輝かせるためには研磨しなければならない。

君たちは金剛石の原石だ。まだちっとも輝いていない。ただの石ころで終わるか、宝石となるかは君たちしだいだ。磨いて磨かれ、光ってほしい。

卒業おめでとう。今後の活躍を期待する。

六組担任　渡辺敏彦先生

三年前、ぼくも君達も阿倍高に入った言わば同期生だ。関わり方の違いこそあれ、君達一人々々にまつわる思い出がある。今は何か、長い船旅から帰ってきたようだ。それはやはり、豊饒な体験だった。何か教えたというよりも、お互いに交流状態で教え教えてもらった気がする。これからも君達が、魂を果てしなく拡がるシーツのようにのばし、大河のように豊かな出会いの数々に遭遇することを心から願っている。

七組担任　梶本たづ子先生

どうであろう。阿倍野の三年間を振り返って悔いはないだろうか。充分に勉学に努めただろうか。運動に励んだだろうか。学校生活を楽しんだだろうか。友人を沢山作っただろうか。胸に手をあてて回顧する時、若い思いが沸き上がってこないか。反省する心を内に、未来を目指せ。未来は君達のものだ。今、若さの直中、未だ未だ己を鍛える時。爾後、天空に大きく飛翔せよ。

八組担任　小梶忠明先生

三年という月日は長いようですが、またたく間に過ぎ去った感があります。

阿倍野へ来て直ぐの担任、全員入学の学年、校舎改築と重なる等、波瀾を予感させる事の多かった中、大過なく卒業の日を迎え、本当に嬉しく思います。

残念なのは、様々な理由で数多く諸君が共にこの日を迎えられなかったことです。これら諸君のためにも阿倍野を卒業したということを大切にして、新天地でがんばって欲しいと思う。

九組担任　北林正司先生

卒業おめでとう。

規定の年限が過ぎて卒業と相成る訳ですが、人生の節目には一度立ち止まって過去と未来を眺めてみるのもいいでしょう。

あせらずゆっくりマイペース。脇目も振らず目標に向って一直線、なんてのはカッコイイけれど、道草を食い、回り道をするのも楽しいものです。他人と異る道でもいい。自分自身の人生を歩んで下さい。

就職内定状況

六十年度の就職内定者が決定した。一般企業、公務員とも厳しい、狭き門であった。

就職内定状況は次の通りである。

アトラス情報サービス　一名
イズミヤ　一名
Mシステム技研　一名
大阪ガス　一名
大阪銀行　一名
大阪興銀　二名
大阪商銀　二名
大阪トヨペット　一名
オージーロイヤル　一名
関西電力　一名
近畿自動販売サービス　一名
近商ストアー　一名
近鉄百貨店　二名
クレバー物産　一名
京阪電鉄　一名
小泉　一名
三和銀行　一名
住友銀行　一名
住友クレジットサービス　一名
セイコーレンズサービス　一名
大陽酸素　一名
ダイエー　一名
大東石油　一名
統計サービス　一名
東洋印刷製本　一名
東洋ステンレス　一名
鳥居運送　一名
南海電鉄　一名
日東精工　一名
日本ガスケット　一名
日本サンガリア　ビバレッジカンパニー　一名
福寿信用組合　二名
松下電器産業　一名
丸紅冷蔵　一名
三田工業　一名
三菱鉛筆　一名
ミノルタカメラ　一名
（五十音順）
公務員
大阪府警　一名
・コンピュータ係　一名
郵政B　一名
大阪府　一名

針小棒大

あっという間の三年間だった。昭和五十八年四月に晴れて阿倍高生になったと思ったら、もう、終わりだ▼定期テストは合計十五回実力テストや小テストを勘定に入れると一体、何回テストを受けたのだろうか。遠足へも行った。奈良・葛城山。体育大会に文化祭も延期になったりしながら行えた▼振り返って考えてみると、この三年間、とても平穏に過ごしてきたように思う。何の支障もなく学校生活を送ってこられた▼私たちは、自治会という組織の存在を、クラス役員のおかげで薄ぼんやりではあるがわかっていた。しかし、その活用の方法は全く知らなかった。教えてもらっていないといえばそれまでになってしまう。叩けば響くが如く、問えば返事がある。私たちは、叩こうと努力しなかったようだ▼単なる積極性の欠如だろうか。やはり、今ではすっかり耳慣れてしまった「無関心」によるものなのだろうか▼本来ならば、先輩は後輩にあらゆる知識を授けていくものなのだろう。だが、私たちは、授けることができるだけのあらゆる知識を持ち得なかった。今ある阿倍高の暖かく、居心地の良い空気を完全に換気することもできなかった▼換気によって入ってくる新鮮な空気はいろいろな影響を及ぼすだろう。制服を変えてしまうかもしれない。校則も違ったものになるかもしれない▼いつか、だれかが、大きな換気扇を回さない限りは、解決できない問題がある。「チリも積もれば山となる」▼私たちの学年では事故が相ついで起こった。私たちが味わった悲しみが二度と再び襲ってこないで欲しい。一緒に卒業できなかった仲間の冥福を祈る。

（綾針）

過ぎゆく青春の日

思い出アンケート

三年生にとっては、高校生活もとうとう今日で終わりとなった。

そこで、三年生（男女計二百人）を対象にアンケートを行い、その結果を混えて、高校生活を振り返ってみようと思う。

まず、三年間を振り返って、一番思い出の多いのは先生方だろう。『生徒たちから見た先生』をひと言で表すと、〝年をとっている先生が多い〟〝変わっている〟〝個性的〟だそうだ。なるほど、納得という感じである。

実際に、本校の先生方は大変個性的である。特に、物まねの対象になりやすいユニークな先生が非常に多い。女生徒の中には、ある先生のファンがいたりするが、それも、先生が個性的であるがゆえではないだろうか。

同様に、一人一人の先生が強く印象に残っている。三年生による『印象深い先生ベスト3』は表1の通り。すでに、阿倍高を去られたとはいえ、堂々一位の中原先生。一、二年生で知っている者は少ないと思うが、いつも白衣に青い手さげ袋、後夜祭では『北国の春』を毎年披露され、時々、キャラメルなどくださる、優しいおじちゃん先生であった。

次に、自分自身の三年間についてである。まず『三年間でやり残し、悔やまれること』は、〝勉強〟がトップ。〝G・F、B・Fがつくれなかった〟〝クラブで活躍できなかった〟などが後に続いている。多くの三年生は、この三つの答に共感できるのではないだろうか。

また、〝G・F、B・F―〟について、高校時代に〝G・F、B・Fができた〟という人は、全体の四十一パーセント。これは、新聞部の予想と比べると多いのだが、一般高校生と比較すると、少ないのかもしれない。その理由を考えてみた。阿倍高生は男女とも大変仲が良い。異性の『友達』は多くても、『特定の――』はいないという人が多いのだろう。また、長続きしているカップルが、結構多い、ということも言えるのではないだろうか。まあ何にせよ〝G・F、B・Fができなかった〟人にとっては虚しい三年間であったに違いない。

3年間で印象に残っている先生

BEST3

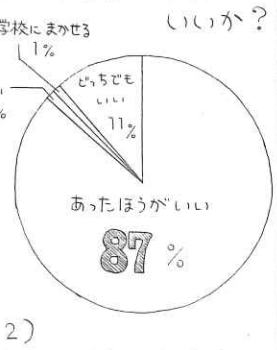
1	中原隆雄先生	（元数学）
2	木下和夫先生	（体育）
3	樋川利雄先生	（体育）
次点	小梶忠明先生	（数）
	小松武司先生	（社）
	渡辺敏彦先生	（英）

（表1）

次に、新聞部の三年間である。我々は入部して以来、特別号を合わせて十四回、そして今回で十五回目の製作発行になる。現在三年生ばかりなので、今号で最終ということも考えられる。

これについて〝残念だ〟〝これから先も新聞部はあった方がいい〟という類の意見が非常に多く（表2参考）、部員一同、感激で涙してしまった。しかし、少数ながら、〝どうも思わない〟〝部がない方がいい〟という意見もあった。これは、みんながどういう風に新聞を読んでいたかを分からないまま、発行し続けていたという点で、遅まきながら反省させられた。しかし、先生方のプライベートな話題や他の部の活躍など、新聞でしか伝わらない事がある、ということも分かって頂きたいと思う。

この先 新聞部はあったほうがいいか？



（表2）

三年生の、しかも卒業寸前まで現役で活動している部員はきっと我々くらいのものだろう。そして、今だに未熟な部分を多々残している。しかし、3年間活動を続けてこれた事、また、今回の卒業式号が発行できた事を、本当に良かったと思っている。

色々なことがあった三年間であった。そして今、確かに高校生活が終ろうとしている。それぞれに様々な思いがあるだろう。そんな中で、七十二パーセントの人達が〝阿倍高に入って良かった〟と感じている。それなりに充実した高校生活が送れたようである。

最後に、アンケートに協力して下さった皆さん、本当にありがとうございました。

部説

愛着心を持ってている校舎

現在、校舎改築工事が進められているが、新校舎の汚れ具合に目を留めたことがあるだろうか。

例えば、壁に落書きがしてあったり、階段に綿ぼこりがたまっていたり。また、手洗い場や非常階段もかなり汚れが目立っている。これは「汚れた」のではなく「汚した」ものである。

このような現状を、我々はどのように受けとめているのだろうか。「だらしない」「情けない」と思うだけで、結局何もしないのではないか。これは大変嘆かわしいことであるし、これでは汚れる一方である。

では、なぜ校舎がこんなに汚れるのか。「自分一人位ならかまわないだろう」とか「後で掃除当番が片付けてくれる」などと考えているからではないだろうか。これは我々の悪い癖である。「誰か」ではなく「自分」が掃除するべきなのだ。落書きも「自分一人」のつもりでいても、それが重なると、目も当てられない状態になるのである。

また校舎が汚れると、他高や就職関係で来られる方々に不快感を与えるばかりではなく、校舎も傷んでしまう。これから先、何十年も使う校舎である。もう少しきれいに、そして大切にするべきではないだろうか。

次に、トイレについてであるが、新校舎のトイレ清掃はクラスごとに決められている。それにもかかわらず、月に一度、業者から清掃に来てもらっている。業者の方では主に、水を使う清掃がされているが、これは我々の手でも充分に出来ることである。「自分達にでも出来ることを他人にしてもらっている」のは、本校の生徒として恥じるべきではないだろうか。

それに最近、スリッパも履かずに靴のまま教室や廊下を歩いている者がいる。

新校舎の床はリノリューム張りで、非常にもろい。そのために二足制が採られているのである。靴のまま歩くと、汚れるばかりではなく、床が傷むのだ。「面倒くさいから」「遅刻しそうだったから」などの理由は言語道断である。

まもなく第二期工事が終了し、またもう一つ新しい校舎が完成する。しかし新しい校舎が作られる一方で、使用している校舎がどんどん汚れたり、傷んだりしているのは、一体どうした事だろう。このままでは、第四期工事が完成した頃にもう一度、「校舎改築工事」を始めなければならないのではないか。

校舎をきれいにするために「掃除当番を、きちんと徹底する」「当番の人数を増やす」ということも必要である。しかし、これから先、何十年も阿倍高生を育ててくれる校舎である。もっと一人一人が愛着心を持つべきではないだろうか。せっかくの校舎を、生かすも殺すも、我々の双肩にかかっているのだ。

旅立つ君達へ

思い出多い先生

この三年間でお世話になったのは、担任の先生方ばかりではないはず。

そこで、今年度の三年生の授業を受けもっておられた、担任以外の先生方からも、ひと言ずつはなむけの御言葉をいただきました。

国語科

○安宅政弘先生○〝人生に卒業なし〟自分の人生を創造して下さい。

○柴山美恵子先生○御卒業おめでとうございます。元気で!!

○杉野登喜子先生○「人間万事塞翁馬」多難な人生を油断せず落胆せず有意義に生きて下さい。

数学科

○一谷英晴先生○君達にとって、これからの数年が人生を左右する大きなポイントになります。勇敢かつ慎重に!!

○今中　寛先生○『吾以外皆我師』という言葉があります。驕ることなくしっかりした判断力を養って行動してください。

社会科

○今宿純男先生○「夜明け」は近い!!　一年間真面目に授業を聞いてくれてアリガトウ!!

○梶川重次先生○教えることに熱意を持て！　教えられることに謙虚たれ！

○草野淳二先生○遣りたい事をどんどん遣れば！

○小松武司先生○これからは、自分の目で見、自分の頭で考え、行動すること。

○増田和一先生○気持の良い生徒たちだった。自分を大切に。健闘を祈ります。

○山上浩一先生○「一期一会」の精神で出会いを大切に。

理科

○宇野隆久先生○乗り越える苦痛が大きい程乗り越えた時の喜びも大きくなります。逃げたら負けです。

○岡崎美千雄先生○阿倍野高校に来て最初に出会った想い出深い君達。新しい世界で新しい自分自身を精一杯試して下さい。

○木村　徹先生○元気で！皆さんの未来が健やかでありますように。

○倉本　優先生○やさしい心と強い意志を持ち、健康に留意し悔いのない人生を送って下さい。

○森本清一先生○卒業生に送る言葉として、真実一路、誠の心をもって自分の人生を歩んで下さい。

英語科

○福田陽造先生○「どんな長い夜もいつかはきっと明けるのだ」いつも希望を！

○室井史子先生○「子供より大人を越えて行け」そう易々とは越えられない大人になりたいと願いつつ、この言葉を贈ります。

家庭科

○佐々木美代子先生○日本人としての誇りを持って世界に羽ばたいて下さい。

保健体育科

○川村　順先生○生涯教育・生涯スポーツで心身共に健康であり続けるように！

○諏訪真也先生○『枝』や『葉』を、たくさんつけた、りっぱな『樹』になって下さい。

○横山志津子先生○卒業おめでとう。それぞれの道に向って、大きく羽撃いて下さい。

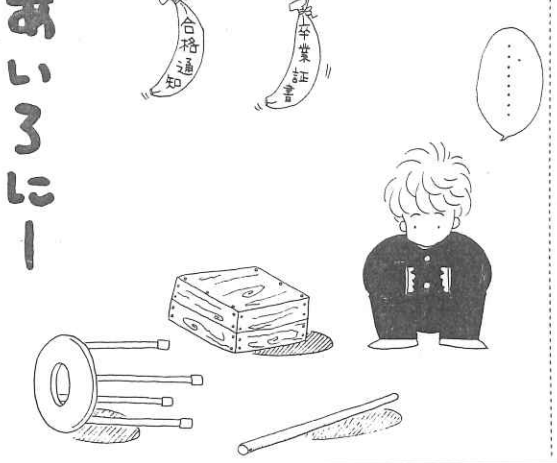
芸術科

○黒田昌彦先生（音楽）○卒業おめでとう。いつまでも校歌を忘れないでほしい。

○故山昭次先生（書道）○「初心忘るべからず」常にこの気持ちで、一年間の計画を立て、実行する人になろう。

○富田　克先生（美術・学年主任）○三十八期生諸君の三年間は僕にとっても印象に残る歳月だった。これからの人生、健闘を祈る。

母校といっても、卒業してしまうと、ほとんど来る機会もなくなってしまいます。何年か後になってこの「先生の言葉」を読み返し、「久しぶりに訪ねてみようか」と思う人もいるでしょう。先生方、素敵な御言葉をありがとうございました。



APC通信

☆冬季クラスマッチ

冬季クラスマッチが、二月五日から十四日まで、放課後を使って行われた。

一年男子はサッカー、二年男子はラグビー、女子は両学年ともバスケットで、厳しい寒さの中、熱戦が繰り広げられた。

結果は次の通り。

○一年サッカー○
優勝　九組
準優勝　四組

○二年ラグビー○
優勝　一組
準優勝　九組

○一年バスケット○
優勝　六組
準優勝　一組

○二年バスケット○
優勝　九組
準優勝　四組

☆小梶先生に赤ちゃん!!

昨年夏に御結婚された、数学科の小梶先生の奥様に赤ちゃんが授かった。ただ今妊娠九ヵ月（一月三〇日現在）。予定日は、ひなまつりあたりだそうだ。そのせいか否か、先生も奥様も、女の子が欲しいそうである（しかし先生は、女の子は育てやすいからで、内心は、男の子が欲しいとか）。父親になることについては、人生の終わりだとかおっしゃって、あまりうれしくないようだ(?)。なにはともあれ、元気な赤ちゃんが生まれてくることを、お祈りいたします。

☆樋川先生がパパに!!

去る十二月六日、午後四時四八分に、樋川先生のお子サマがお生まれになった。体重は三四六八グラム。男の子で、名前は「利平（りへい）」くん。先祖に「利平」という立派な方がおられて、その名前をいただいたそうだが、家号の山利の「利」、先生のお名前の利雄の「利」も入っていて、相当な期待がこの赤ちゃんにかかっている。顔は、先生似で、もう歯が生えてきているとか。親に忠実な、たくましい子になってほしいということだ。パパになった気分は最高らしく、とてもうれしそうに話して下さった。

☆吹奏楽部演奏会

吹奏楽部が演奏会を開くことになった。今年度の卒業生も出演するそうだ。三年間の大目標であった演奏会なので、お誘い合わせの上、多数お越し下さいとのことである。

詳しくは次の通り。

○日○五月十一日（日）
○開演○午後五時
○場所○森ノ宮青少年会館文化ホール
○入場料○無料

編集後記

とうとう、今回の新聞が私たちの最後の新聞になってしまいました。というのも、新聞部部員は、三年生ばかりで、今だに一、二年生の入部者がいないからです。後輩がいないまま卒業するのは、心残りで仕方がありません。クラブに入っていない人、または、新聞作りに興味がある人、新聞部一同、心から歓迎します。とは言っても、私たちは卒業すると、誰もいなくなるので、しばらく新聞部は沈黙することになるでしょう。しかし！　新聞部は不滅です。いつか、私たちのまだ見ぬ後輩たちが、再び、皆さんの前に現れるでしょう。その時は、ご愛読のほど、よろしくお願いします。

長々と新聞部のことを書いてしまいましたが、最後に卒業生の皆さんに一言。皆さんのこれからの御健闘を、心からお祈りします。